(7)みんなの学校のまちへの影響

食の学校の場合

地域福祉を担う

■料理や食文化の知恵・スキルを持った留学生や高齢者の社会参画

■デリバリーサービスによる高齢者への配食

市民の社会参画を促す

■プロやアマチュアも料理を教える / 教わる

■多国籍の料理を気軽に食べれる、出店、創作、調理等の多様な参画と可能性

人口の増加・産業の創出

■賃貸住宅により、まちにトライアルステイを行う

■食の新規事業を試せる場

■留学生や学生が、まちの飲食店で働ける機会を創出

新しいタイプの教育 学びの質の創出

■食を通じた多世代・多国籍交流と教育と遊び場

■自ら調理したり食・エンタメ事業を実践できる学び

新たな便益や繋がりの創出

■多世代、多国籍での交流機会の創出

■既存飲食店人材の知恵や技術を活用

地域の魅力・価値の向上につなげる

■新ジャンルのアジアの多国籍料理発信拠点のまちとしてブランディング

防災機能の充実

■災害時にも美味しい食事を提供できるキッチンと非常食を常備できる大型の冷蔵庫

■遠隔地にも食料を届けるフードトラック

(7)みんなの学校のまちへの影響

ものづくりの学校の場合

地域福祉を担う

■ものづくりのスキルを持った高齢者の社会参画

市民の社会参画を促す

■ものづくりを教える / 教わる
■憩い、買い物、出店、製作等の多様な参画

人口の増加・産業の創出

■DIY の暮らしに興味を頂いた人が空き家を利活用して移住
■クリエイター等が、活用されていない町工場でものづくりできる場を創出

新しいタイプの教育 学びの質の創出

■ものづくりを通じた多世代・多国籍交流と教育と遊び場
■自ら製作したり、事業を実践できる学び

新たな便益や繋がりの創出

■多世代、職人との交流機会の創出
■自ら実践・製作できる学び

地域の魅力・価値の向上につなげる

■自分らしい暮らしを自分で作れるまちとしてブランディング

防災機能の充実

■食事や食料の提供に加え、ものづくりならではの機材・設備を活用し、快適な避難空間の創出

5. みんなの学校の校舎活用案とまちぐるみ教育への展開

(7)みんなの学校のまちへの影響

福祉の農業ビジネスの学校の場合

地域福祉を担う

■健康を気遣う人も気軽に緑に触れられる高齢者の社会参画

市民の社会参画を促す

■野菜作りを教える / 教わる
■憩い、買い物、加工、販売等の多様な参画

人口の増加・産業の創出

■周辺空き地の菜園化と畑ある暮らしに興味を持った人の移住
■農業と福祉の連携した事業の展開

新たな便益や繋がりの創出

■畑を通じた多世代の交流
■農作物の加工や販売の可能性

新しいタイプの教育 学びの質の創出

■食を通じた多世代・多国籍交流と教育と遊び場
■自ら調理したり食・エンタメ事業を実践できる学び

防災機能の充実

■食事や食料の提供、快適な避難空間の提供に加え、防災訓練を継続して、顔がわかる地域の関係性を構築

地域の魅力・価値の向上につなげる

■菜園文化や健康のまちとしてのブランディング

5. みんなの学校の校舎活用案とまちぐるみ教育への展開

(7)みんなの学校のまちへの影響

School of Food Entertainment

▶フード・ビジネスを学べる学校（教育）
▶新しい食産業の発信拠点（産業）
▶高齢者への配食・宅食の拠点（福祉）
▶非常時の食料供給（防災）

School of Craft

▶ものづくりを学べる学校（教育）
▶新規住人を呼び込む賃貸住宅（人口）
▶購入・出店等、様々な参加機会（参加）
▶ものづくりのまちとしてのブランディング（まちの魅力）

School of Agri-Welfare

▶農業 × 福祉を学べる学校（教育）
▶高齢者施設・保育施設との連携（つながり）
▶農業による福祉プログラム（福祉）
▶非常時の高齢者等のケア（防災）

School of Performance

▶エンタメを学べる学校（教育）
▶新しいエンタメ産業を育てる（産業）
▶音楽のまちとしての情報発信（まちの魅力）

School of International Communication

▶国際交流を学べる学校（教育）
▶まちの外国人との交流（参加）
▶高齢の外国人の雇用の場（福祉）
▶外国人にとっての非常時の情報拠点（防災）

School of Sports

▶スポーツを学べる学校（教育）
▶スポーツ好きの集う賃貸住宅（人口）
▶スポーツのまちとしての情報発信（まちの魅力）

School of IT Engineering

▶IT技術を学べる学校（教育）
▶既存産業のIT化を促進（つながり）
▶非常時の情報を整理する（防災）

School of International Culture

▶異文化を学べる学校（教育）
▶まちの韓国人の参加の場（参加）
▶日本一のグローバルタウンとしてのPR（まちの魅力）

学校の新たな利活用(リノベーション)を通して、
まちの特性を反映した、個性豊かな福祉・参加・教育等の場をつくる

(8)「みんなの学校」同士の連携イメージ

School of Food Entertainment

×

School of Agri-Welfare

→ 生野野菜のレストラン

School of Craft

×

School of Food Entertainment

→ オリジナル・フードトラック

School of Performance

×

School of Food Entertainment

→ 食・音楽の総合エンタメ

School of International Communication

×

School of Craft

→ 生野ものづくりの担い手発掘

まちに多彩な産業や居場所が生まれることで、
それぞれが連携し、新たな価値を生み出す

(9)生野のまちぐるみ教育とみんなの学校による政策課題の解決イメージ

	都市防災政策	交通政策
現状の課題	● 避難所機能の強化 ● 避難場所不足 ● 耐震性・耐火性の低い住宅の密集　等	● 公共交通機関の不足 ● 高齢者・障がい者などの移動困難化　等
みんなの学校に期待される機能	● 次世代型避難所の提供 ● フードトラックなどによる暖かい食事、トレーラーハウスやテントなどによる快適な避難空間提供	● みんなの学校を拠点とした交通ネットワークの構築
民間企業の役割	● 災害発生時における空間・備品等の提供	● みんなの学校を巡回するバスの提供 ● フードトラックの巡回
行政の役割	● 災害発生時における空間・備品等の借り上げ等への予算確保（災害救助法の適用確認） ● 早期の応急仮設住宅建設（平時からの災害対応設備の確保） ● 防災訓練の継続	● 道路運送法上の適用関係の整理 ● フードトラックなどの軽自動車が駐停車できるよう、駐停車場所に関して警察との調整、公園の使用許可の適用

(10)災害時における「みんなの学校」

日常的に利用できる学校でありながら、被災者の命と健康を守る避難所機能が確保された場とする

快適性の高い避難空間

教室内、校庭にテントなどを設置し、快適な避難空間の提供

トレーラーハウス等も活用

周辺への食事の提供

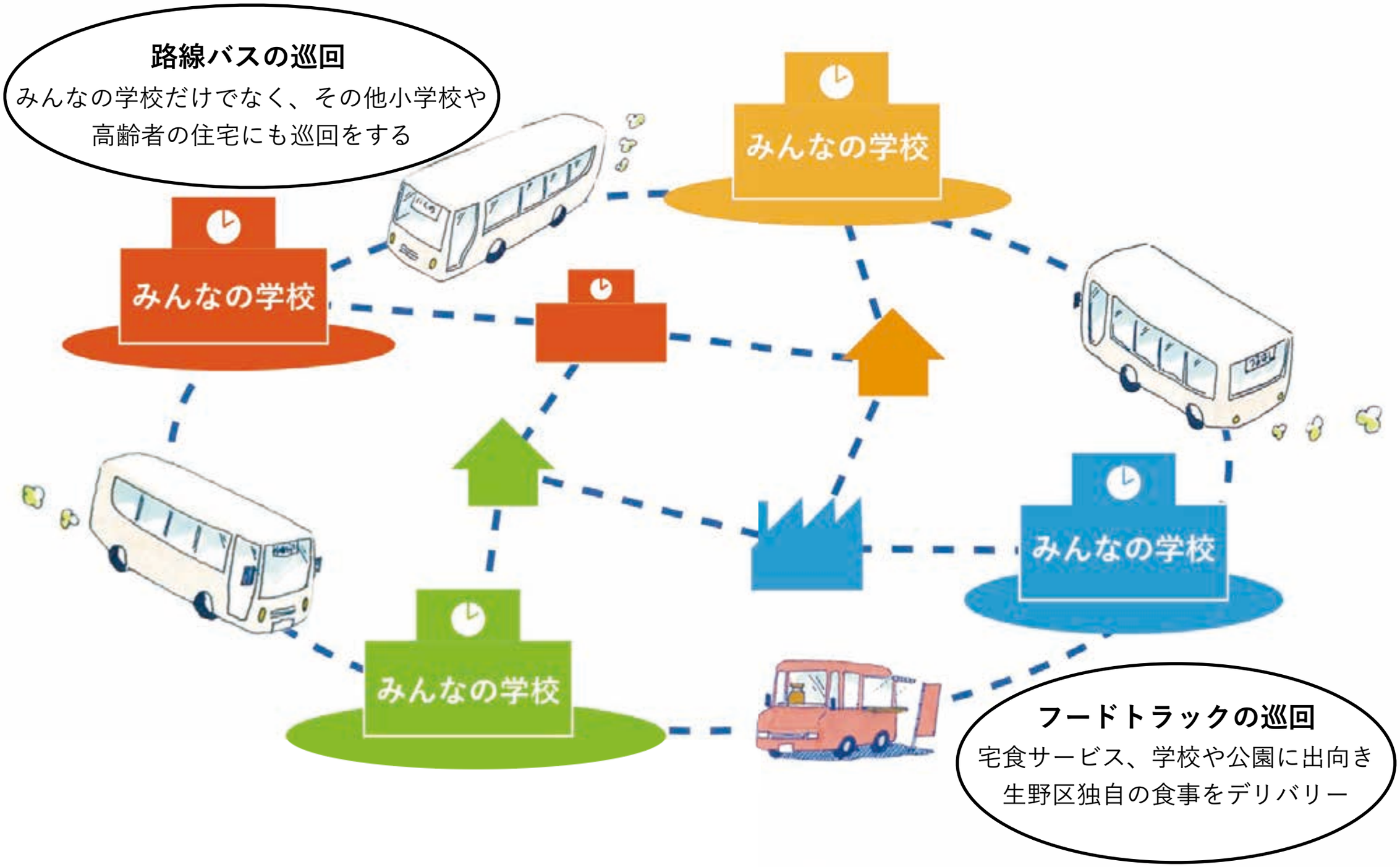
フードトラックを災害時にも活用し、必要な場所へ食事を届ける

避難空間での食事

給食室、フードトラックや大型の冷蔵庫の食材を活用し、温かい食事の提供

空き賃貸住宅等の被災者提供に関する事業者との協定化

(11)「みんなの学校」を拠点とした交通政策



みんなの学校を拠点とした交通ネットワークの構築

区域をまたいで、区民の方がみんなの学校を使えるように、まちを循環できる交通ルートを整備

(12)「みんなの学校」における公的スペースの活用案

既に学校内で、行われている活動やスペース利用は、
可能な限り残す

●備蓄物資保管スペースの確保

現在の学校と変わらず、
災害時にも備蓄物資の提供ができるよう今ある機能を引き続き確保する。

●地域図書室 兼 自習室

みんなの図書室として地域の方や子育て世代に開放。
夕方は「いきいき」から帰ってきた子どもたちを保護者に受け渡せる場所へ。

●地域コミュニティスペース

「学校跡地検討会議」で、地域が活用したい教室等についての意見を聞いて決定。
（例えば、地域の会議、祭り、現在の生涯学習ルームや学校体育施設開放事業など）

(13)福祉的な視点の「みんなの学校」（いずれかの学校・校区での展開案）

●ソーシャルファーム*の機能

いずれかの学校、またはそれぞれの事業者の運営の中で、シングルマザーや若者、高齢者、障がい者等の就労支援となるサービスを取り入れる。どのような状況がある人でも、就労訓練や就労支援を受けながら社会で働ける環境を作る。

*「ソーシャルファーム」とは、一般就労（通常の企業）でもなく、福祉的就労（作業所）でもない、「第三の働く場」と解釈されている。どのような状況な人でも一般就労に近い形で働ける環境

●空き家を高齢者や低所得者の福祉的な住居支援やシェアハウスとして活用

校区の空き家を高齢者や低所得者の福祉的な住居支援やシェアハウスとして活用する。住む人たちが「みんなの学校」を拠点に地域でつながりを持ち、「みんなの学校」でも働ける機会を持てることで、孤立を防ぐような環境をつくる。

●「仕事を学ぶ」職業訓練の機能

子どもたちが、生野区で働きたいと思えるきっかけとして、職業訓練の機能を持ったサービス環境をつくる。

多様な大人に出会うことで、子どもたちは人生の幅を広げ職業選択の範囲を拡大する。またそれは、まちぐるみ教育に関わる大人の参加を促す根拠にもなる。それぞれの「みんなの学校」で仕事と人生に出会える、それが「まちぐるみ教育」が生野区の子どもたちに与える新たな学びの環境である。
同時に、起業したい・働きたい若者や高齢者・子育て世代・外国の方などのキャリア形成に役立つ場を目指す。

6. 住みたいまち生野区へ

～まちぐるみ教育とみんなの学校がある生野区～

▌6.住みたいまち生野区へ～まちぐるみ教育とみんなの学校がある生野区～

(1)生野区の未来は、なつかしい未来

「みんなの学校」がまちの潜在力を発掘し
まち全体が学びの場となり、生野区独自の教育・産業・暮らし・福祉の場をつくる
みんなでつくり、みんなで学ぶ、
このまちだけの、未来の学校

(2)週末、どこの学校へ行こう？　―生野区のある一日―

祖父も、父も、私も。三世代で通った思い出の多い小学校が、去年、閉校した。

私のこどもは、まだ１歳。
その小学校には通えないけれど、今日もみんなの学校にベビーカーを押して行ってきた。
平日の昼間は、小学生しか入れなかった門が開かれ、運動場には芝生と幼児向けの木製遊具がある。
手芸が好きな人や、習いたい人が集まる「クラフトカフェ」が１階の教室に入っていて、
近所の年配の方に教えてもらいながら、こども用のエプロンを縫った。
再来週は、別の教室で「キッズチェアを作ろう！」というワークショップがあるので、
ママ友と予約をして帰る。

学校は、今も私たちの学校であり続けている。
もっと身近に、もっと自由な空間に。
地域の人、働く人、くつろぐ人が出入りする。

この学校のテーマは「ものづくり学校」だ。
近所の小中学校から、こどもたちが図工や美術・技術の授業の時にはこの学校にやってくる。
夕方や土日には、この地域の小学生が駆け込んでくる。
障がいのある人もない人も、共に働く場にもなっている。
学校の図書室は、今は地域図書室として開放された。時に、受験勉強をする学生の姿もある。
晴れた日は、運動場にテーブルが出て、カフェからコーヒーを持ち出せる。
本を読みながら、くつろぐ高齢の方もいる。外国の人たちが交流している。
……もしかしたら、去年よりずっとにぎやかかもしれない。

(2)週末、どこの学校へ行こう？　―生野区のある一日―

生野区では「まちぐるみ教育」というコンセプトのもと、西側の学校跡地が新たに利活用
（リノベーション）され、をそれぞれテーマのある「みんなの学校」になった。
この学校は「ものづくりの学校」。あの学校は「食の学校」、その隣「エンタメの学校」……。
料理を習ったり、ダンスを楽しんだり。一日の過ごし方の選択肢が、一気に広がった。

人生１００年時代、すべての人が長い人生を学び続け、
つながり合える「居場所と持ち場」のあるまち。学びのあふれたまち。
ちょっと歩けば、みんなの学校でおもしろい出会いがある。
日常からふっと離れた、なつかしい場所がある。

古いものを残し、伝え。
新しいものを生み出し、広める。

生野のまちの中に、わくわくが広がっている。
この空気の中で、育てられる私のこどもの未来にも、わくわくする。

「来週は、どの学校に行こう？」

参考事例

▌参考事例）みんなの学校(Case study1,2,3,4)

食の学校、ものづくりの学校、農業ビジネスの学校、パフォーマンスの学校の参考事例

▶ ベトナム人の若者に食に関する職業訓練_KOTO

▶ WEB上にて海外の食を教わったり食べることのできるサービス_TADAKU

▶ 廃材のレスキューや販売を行う事例_Rebuilding Center Japan

▶ 日常的な製作・交流の場_喫茶ランドリー

▶ 伝統的な家具職人が高齢者にスキルを教える_ダニエル「家具の学校」

▶ 印刷業の町工場をコワーキングに_ co-lab 墨田亀沢

▶英国政府が1991年に創立したパフォーマンス・アート
（メディア教育のみに焦点を絞った英国唯一の無償学校）

▶ 小学校を共同住宅へ改修_徳島県上勝町 福原小学校

用語解説

・**社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）（P12・P23）**
社会的に弱い立場にある人々をも含め市民ひとりひとり、排除や摩擦、孤独や孤立から援護し、社会（地域社会）の一員として取り込み、支え合う考え方のこと。

・**リノベーション（P4他）**
既存建物を改装し、用途変更や機能の高度化を図り、建築物に新しい価値を加えること。

・**コーホート（P15他）**
人口移動の理由を探るため、ある特定年代(コーホート)の人口増減をみる分析手法。

・**ヒートマップ（P18他）**
データ結果を可視化するために、数字データの強弱を色で視覚化する方法。

・**モビリティマネジメント（P19）**
当該の地域や都市を、「過度に自動車に頼る状態」から、
「公共交通や徒歩などを含めた多様な交通手段を適度に（＝かしこく）利用する状態」へと少しずつ変えていく一連の取り組みを意味する。

用語解説

・**ニューカマー（Ｐ19）**
新しく来た人。

・**ＤＩＹ（Ｐ63他）**
自分で家屋を修繕したり、家具を作ったりすること。

・**コワーキング（Ｐ62他）**
事務所設備や会議スペースなどを共有しながらそれぞれの仕事を行う新しいワークスタイルのこと

・**リペア（Ｐ63他）**
修理すること。修繕すること。

・**ＳＰＣ（特別目的会社）（Ｐ80）**
事業者の出資によって設立される事業目的を特定した会社（特定目的会社）。
ＰＦＩの場合は、ＰＦＩ事業に参加する複数の企業（コンソーシアム）が出資して、
ＰＦＩ事業を遂行するためのＳＰＣを設立し、公共は、そのＳＰＣとＰＦＩ事業契約を締結する